

■協議内容について

○ **地域別・課程別等の学校の在り方について**  
 今後、さらに生徒数が減少していく中において、全ての学校の規模が小さくなっていくことが想定される。  
 令和5年度アンケート調査においては、中学生が進学する高校を選ぶときに重視するものとして、学科やコースの内容、部活動を理由とする回答が多く、多様な教育課程や多くの部活動がある学校に対する一定のニーズがあるということが分かる。  
 多様な教育課程や多くの部活動の設置には、一定規模の学校が必要である。今後の県全体の生徒数の減少を踏まえると、将来、必要とする学校の規模を維持できない場合があることが想定される。  
 教育委員会で具体的な協議を進めるに当たり、次の6つの論点について、ご意見をいただきたい。

■地域別・課程別等の学校の整理と論点について

※学校名の後の数字は、入学定員をもとにした1学年の学級数を示す

1 **地域別・学科別等**  
 ① **高知市・南国市の学校 (11校)**  
 (高知農業6)、(高知東工業4)、  
 岡豊8、高知東6、(高知工業7)、  
 高知追手前7、高知丸の内5、高知小津7、  
 (高知北2)、高知国際7、春野4

<論点>  
 ○ **中学生の数が多地域における学校規模について**  
 ・一定規模以上の学校では、柔軟な教育課程を置くことができ、団体部活動を行いやすい。  
 ・高知市・南国市地域では県立高等学校の数が多く、また、県内の多くの私立高等学校も同地域に設置されていることから、中学生にとっての高校の選択肢が多い。  
 高知市においても、今後、生徒数が急速に減少することから、生徒が集中する地域の学校規模・在り方についてご意見をいただきたい。

1 **地域別・学科別等**  
 ② **進学拠点校 (7校)**  
 安芸5、山田5、(高知追手前7)、  
 (高知小津7)、(高知国際7)、  
 須崎総合5、中村5

<論点>  
 ○ **進学拠点校における学校規模について**  
 ・進学に重点を置く教育課程を編成するためには、一定規模が必要と考える。  
 このことを踏まえて、地域の拠点校としての学校規模・在り方についてご意見をいただきたい。

1 **地域別・学科別等**  
 ③ **中山間地域の学校 (10校)**  
 室戸2、(中芸1) 嶺北2、吾北分校1、  
 佐川2、窪川2、檮原2、四万十2、  
 西土佐分校1、清水2

<論点>  
 ○ **学校規模を維持できない場合の考え方について**  
 これまでの検討委員会において、  
 ・集団生活における社会性の育成や協働的な学びには、一定の生徒数が必要であり、当面は、本校は1学年1学級20人以上、分校は1学年1学級10人以上という数値を目安として残し、地域と一体となって教育の質を維持するための環境づくりに取り組む必要があるのではないか。  
 ・今後、数年に渡って、目安とする生徒数を維持できない状況が続いた場合には、今後の高等学校の在り方について検討する必要がある。  
 とのご意見をいただいている。  
 この「検討する必要がある」とする具体的な内容や基準について、ご意見をいただきたい。

地域別・課程別等の学校分類

1 **地域別・学科別等**  
 ① **高知市・南国市の学校 (11校)**  
 (高知農業)、(高知東工業)、岡豊、高知東、  
 (高知工業)、高知追手前、高知丸の内、高知小津、  
 (高知北)、高知国際、春野  
 ② **進学拠点校 (7校)**  
 安芸、山田、(高知追手前)、(高知小津)、  
 (高知国際)、須崎総合、中村  
 ③ **中山間地域の学校 (10校)**  
 室戸、(中芸)、嶺北、吾北分校、佐川、窪川、  
 檮原、四万十、西土佐分校、清水  
 ④ **産業系の学校 (7校)**  
 高知農業、高知東工業、高知工業、伊野商業、  
 高知海洋、幡多農業、宿毛工業  
 ⑤ **①～④以外の学校 (4校)**  
 城山、高岡、大方、宿毛  
 2 **定時制・通信制の学校 (12校)**  
 室戸、中芸、山田、高知東工業、高知工業、高知北、  
 高岡、須崎総合、佐川、大方、宿毛、清水

1 **地域別・学科別等**  
 ④ **産業系の学校 (7校)**  
 高知農業6、高知東工業4、高知工業7、  
 伊野商業4、高知海洋2、幡多農業4、  
 宿毛工業4

<論点>  
 ○ **産業系の学校の学校規模について**  
 ・高知市・南国市の学校と、その他の地域の産業系の学校の在り方について、分けて考える必要があるのではないか。  
 生徒数が減少する中における産業系の学校の学校規模及び学校配置についてご意見をいただきたい。

1 **地域別・学科別等**  
 ⑤ **①～④以外の学校 (4校)**  
 城山2、高岡2、大方2、宿毛3

<論点>  
 ○ **高知市・南国市に隣接する学校と、幡多地域にある学校のそれぞれの学校の在り方**  
 高知市・南国市に隣接する学校と、幡多地域にある学校のうち、①～④に分類されない学校の在り方について、ご意見をいただきたい。  
 ◇城山、高岡、大方  
 不登校や中途退学を経験した生徒、発達障害のある生徒等に柔軟な対応をするための支援体制を整えた学校であり、現行の再編振興計画では、特例として1学年1学級(20人以上)を最低規模としてきた。

2 **定時制・通信制の学校 (12校)**  
 室戸、中芸、山田、高知東工業、高知工業、  
 高知北、高岡、須崎総合、佐川、大方、宿毛、  
 清水

<論点>  
 ○ **学校規模を維持できない場合の考え方について**  
 これまでの検討委員会において、  
 ・昼間部は1学年1学級20人以上、夜間部は学校全体の生徒数20人以上を目安とする数値目標を残し、ICTを活用した学びを取り入れ、個に応じた支援を行う必要があると考える。  
 ・目安とする生徒数を維持できない場合には、定時制と通信制とを組み合わせたサテライト校化の検討など、生徒の教育機会の確保に向けた今後の在り方を検討する必要がある。  
 とのご意見をいただいている。  
 現状では、多くの定時制課程において、生徒数の目安の数を大きく下回る状況にあることから、今後の学校の在り方についてご意見をいただきたい。